

塩屋観音堂 西国三十三所写し霊場



観音堂内部



MAP

塩屋観音堂

西国三十三箇所写し霊場

click

[googleMAPにリンク](#)

塩屋観音堂紹介板

(紹介板の左の石柱は道標・右の石仏は牛の墓)



塩屋観音堂 (東かがわ市教育委員会の紹介板)

- 塩屋観音堂の由来は定かではありませんが、近くにあった円福寺という寺院に関係があるとされています。円福寺は室町時代に引田城の城主であった四宮氏が翼山の山麓に建てた寺院で、聖観音像と不動明王をまつたと言われていました。やがて円福寺は廃れ無住となり、聖観音をまつる観音堂のみになったと考えられます。
- 無住といえども観音堂は白鳥方面から引田への出入り口にあたることから、旅の僧や巡礼などが立ち寄ることもあったと伝えられています。
- 幕末には徳念という僧が観音堂に住み、子供たちの読み書きを教えるとともに、観音堂を再建しました。徳念は観音堂の再建だけでなく、慶応二年(1868年)に、この裏山に西国三十三観音写し霊場も建てました。この石仏は引田や小海・吉田など周辺の人々の寄進により建てられました。
- 現在は観音堂の庫裡は塩屋会館に改築し、祭壇を設けて聖観音像と弘法大師像をおまつりしています。
- また、塩屋橋のたもとには、金比羅・白鳥への道しるべや明治十五年(1882年)に建てられた牛の墓があり、交通の歴史を身近に感じることができます。

塩屋観音堂西国三十三所写し霊場概要

- 塩屋観音堂西国三十三所写し霊場は塩屋観音堂の背後にある翼山の麓に巡拝路が作られています。
- 写し霊場がつけられたのは1868年とされていますから、まさに江戸から明治に時代が大きく動いた年です。
- 明治に入ると廃仏毀釈のうねりの中で寺院や仏像が大きな災禍を受けましたが、この写し霊場の観音様が被害を被った痕跡は見られません。明治政府の大方針も純朴な観音信仰には通じなかったようです。
- 塩屋観音堂写し霊場は市内に残る写し霊場の中でも最も手入れの行き届いた霊場の一つで、地区の人達によって参道が整備され、定期的に献花も行われている模様です。
- 寄進者はほとんど近在(旧引田町)の方です。仏像の寸法(単位=cm)や札所番号と寺名は写真とともに掲載していますのでご覧ください。台座寸法の？は土に埋もれた個所で、あえて土を取り除いての採寸はしませんでした。
- ただ、五番のみ札所番号も寺名も刻まれていませんでした。大きな謎です。

調査から見えてきたこと

- 札所番号数字は二十番台で廿が使われているもの3基(廿・廿五・廿九)三十番台で卅が使われてるもの2基(卅・卅二)でした。
- 同じく札所番号で漢字の番が使われているもの6基(一番・十番略字・二十一番・二十四番・廿五番・三十一番)刻字のないもの1基(五番)その他26基は変体仮名でした。
- 山号が刻字されていたのは一番の那智山のみでした。その代り寺名(青岸渡寺)はありませんでした。
- 寺名が刻字されていなかったものは4基(一番・三ばん変体仮名・五番・八ばん変体仮名)その他は平仮名やカタカナに漢字が混在し興味深い表記になっています。例えば十六番清水寺=きよみづ・二十九番松尾寺=まつを寺略字、等です。二十六番一乗寺は寺名でなく山号法華山を口つけじと刻字されていました。ただし、漢字だけの表記はありませんでした。
- 寄進者や願文は本体の石仏や台座にまちまちに刻まれていました。石仏と台座のノミ跡が明らかに異なることから、台座は地元の石工が彫ったものかもしれません。形は全て船形で、一部に蓮華台部に膨らみを持たせたものがありました。

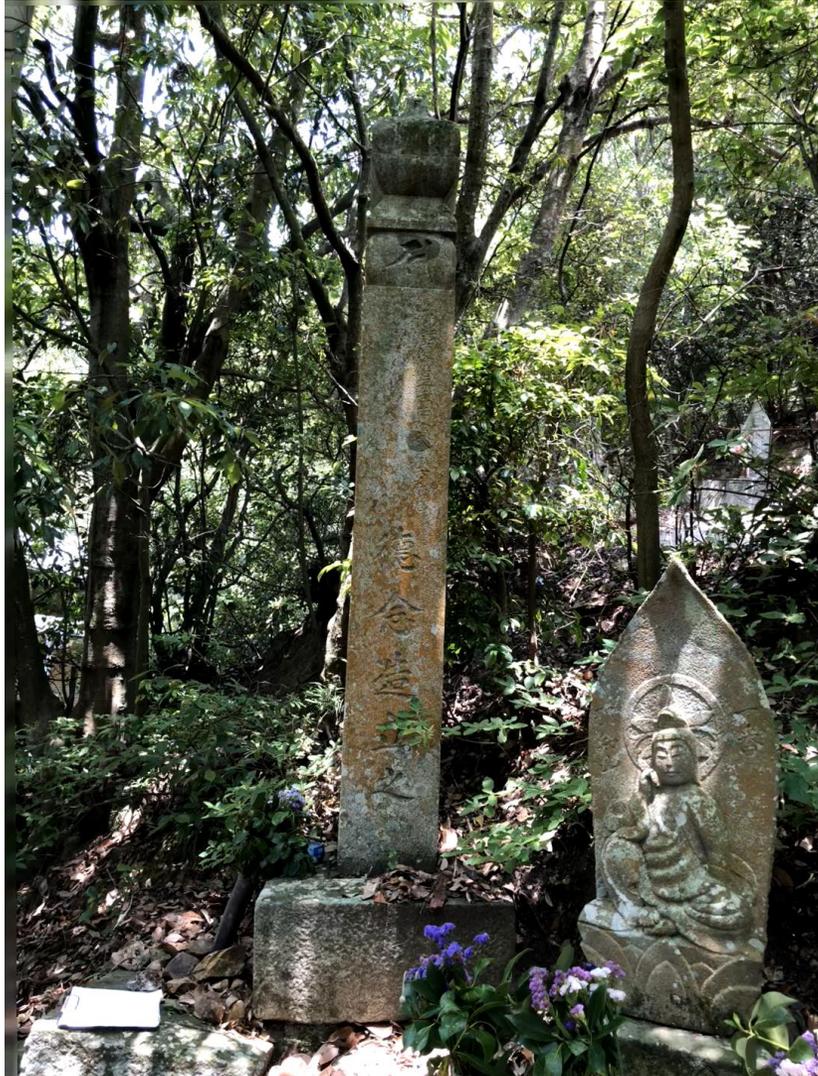
寸法は発願の一番と結願の三十三番がやや大きく、他は概ね高さが62cm前後幅は広いところで29cm前後狭いところで21cm前後でした。

塩屋観音堂西国三十三所写し霊場調査表

西国三十三所			塩屋観音堂西国三十三所写し霊場				(寸法単位=cm)			
札所番号	山号	寺名	札所番号	山号	寺名	寺名に当て字を用いたもの	寸法	高さ	幅最大	幅最小
一	那智山	青岸渡寺	一番	那智山	無			86	38	23
二	紀三井山	紀三井寺	二ばん変体仮名	無	きみいでら			62	27	21
三	風猛山	粉河寺	三ばん変体仮名	無	無			62	28	19
四	槇尾山	槇尾寺	四ばん変体仮名	無	満きのお寺略字	満きのお寺略字		62	27	22
五	紫雲山	葛井寺	無	無	無			47	28	22
六	壺阪山	壺阪寺	六ばん変体仮名	無	津口でら	津口でら		67	32	22
七	東光山	岡寺	七ばん変体仮名	無	おかでら			58	26	23
八	豊山	長谷寺	八ばん変体仮名	無	無			61	29	21
九	興福寺	南円堂	九ばん変体仮名	無	なんえんどう変体仮名			63	32	24
十	明星山	三室戸寺	十番略字	無	みむろ寺略字			63	28	20
十一	深雪山	醍醐寺	十一ばん変体仮名	無	だいが寺略字			61	28	20
十二	岩間山	岩間寺	十二ばん変体仮名	無	い八までら	い八までら		63	30	24
十三	石光山	石山寺	十三ばん変体仮名	無	いしやまでら			63	29	22
十四	長等山	三井寺	十四ばん変体仮名	無	みいでら			63	30	22
十五	新那智山	今熊野観音寺	十五ばん変体仮名	無	京の今くまの			66	33	24
十六	音羽山	清水寺	十六ばん変体仮名	無	きよミ津	きよミ津		65	30	22
十七	補陀洛山	六波羅蜜寺	十七ばん変体仮名	無	六はら寺略字			60	27	20
十八	紫雲山	六角堂	十八ばん変体仮名	無	六かくどう			66	30	22
十九	霊鹿山	革堂	十九ばん変体仮名	無	かうどう			63	29	21
二十	西山	善峯寺	廿ばん変体仮名	無	よしみ寺略字			62	29	22
二十一	菩提山	穴太寺	二十一番	無	阿なうじ変体仮名	阿なうじ変体仮名		63	26	19
二十二	補陀落山	総持寺	二十二ばん変体仮名	無	そうぢ			68	30	21
二十三	応頂山	勝尾寺	二十三ばん変体仮名	無	かつを寺略字			63	28	20
二十四	紫雲山	中山寺	二十四番	無	中山寺略字			63	27	22
二十五	御嶽山	播州清水寺	廿五番	無	きよみ口			62	29	19
二十六	法華山	一乗寺	二十六ばん変体仮名	無	口つけじ(=山号)			62	28	20
二十七	書寫山	圓教寺	廿七ばん変体仮名	無	志よしや寺略字	志よしや寺略字		61	28	20
二十八	成相山	成相寺	二十八ばん変体仮名	無	なりあいじ			63	25	19
二十九	青葉山	松尾寺	廿九ばん変体仮名	無	ま津を寺略字	ま津を寺略字		62	29	21
三十	竹生島	宝蔵寺	卅ばん変体仮名	無	ちくぶ寺略字(=山号)			65	31	20
三十一	姨綺耶山	長命寺	三十一番	無	ちよめいじ			60	28	19
三十二	繖山	観音正寺	卅二ばん変体仮名	無	く八んのんじ	く八んのんじ		61	27	20
三十三	谷汲山	華蔵寺	三十三ばん変体仮名	無	たにぐみ			76	39	26
						石仏の大きさの平均値		62	29	21

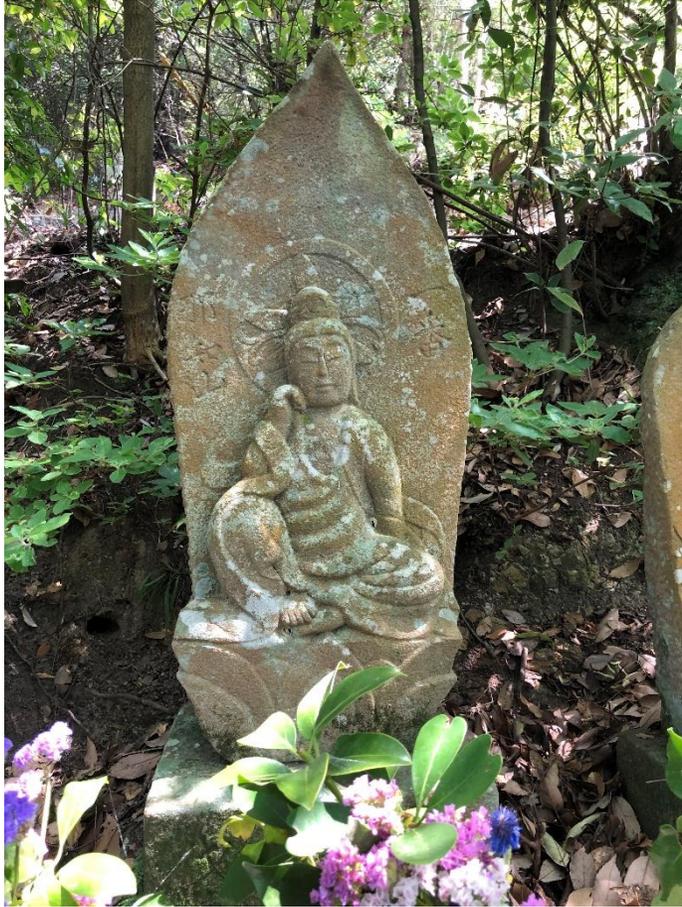
平均値は一番と三十三番を除く寸法の平均を四捨五入したもの

写し霊場入口の石塔と無縁仏の五輪塔



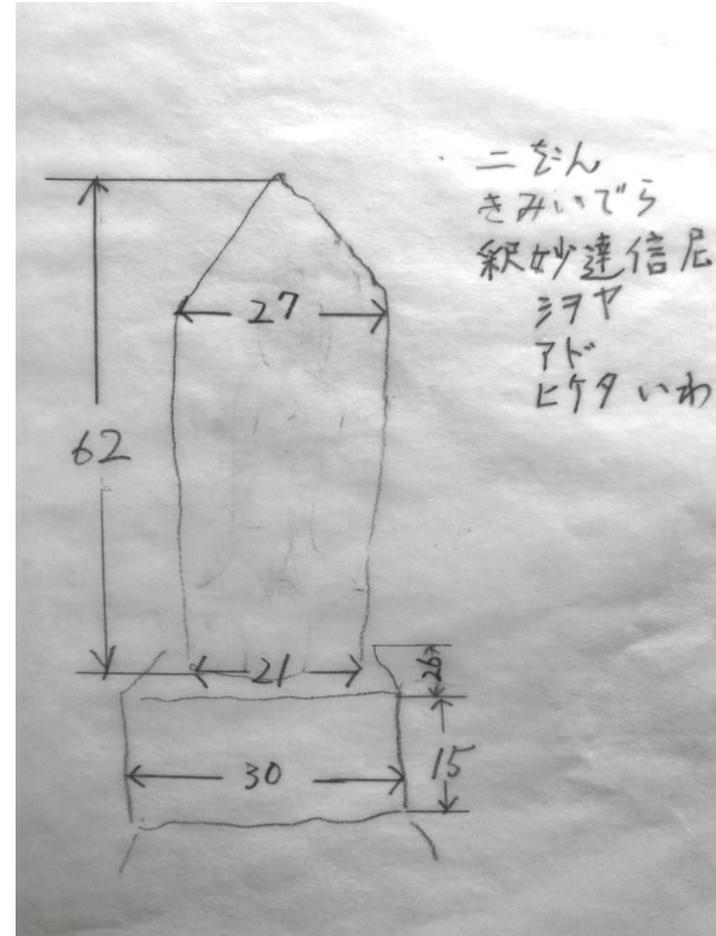
第一番 那智山 青岸渡寺

御詠歌 補陀洛や岸打つ波は 三熊野の 那智のお山に ひびく滝津瀬
如意輪観世音菩薩



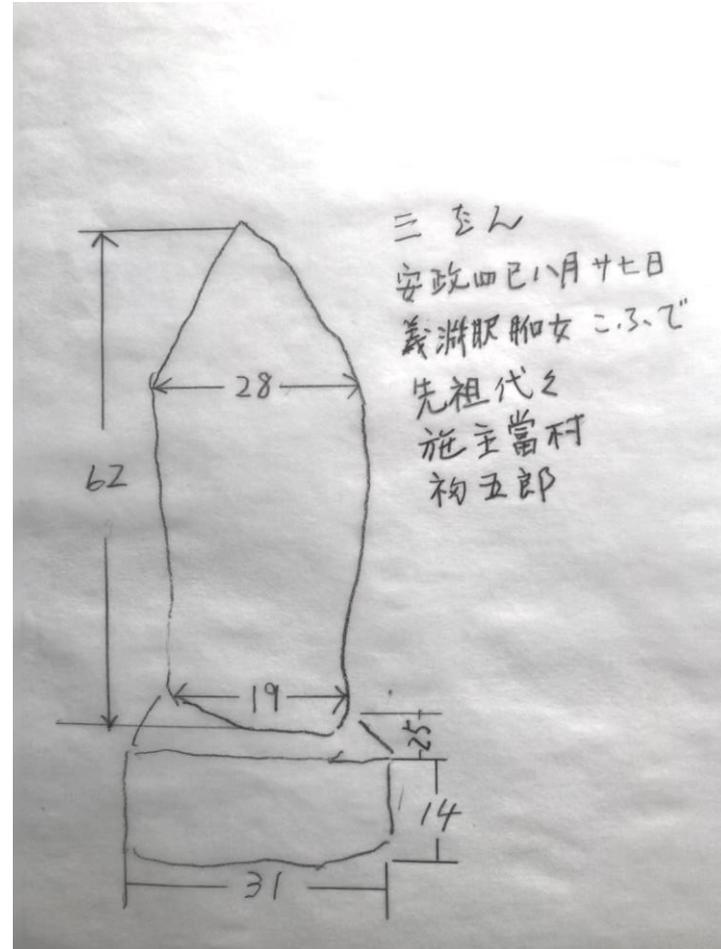
第二番 紀三井山 金剛宝寺（紀三井寺）

御詠歌 ふるさとを はるばるここに 紀三井寺 花の都も 近くなるらん
十一面観世音菩薩



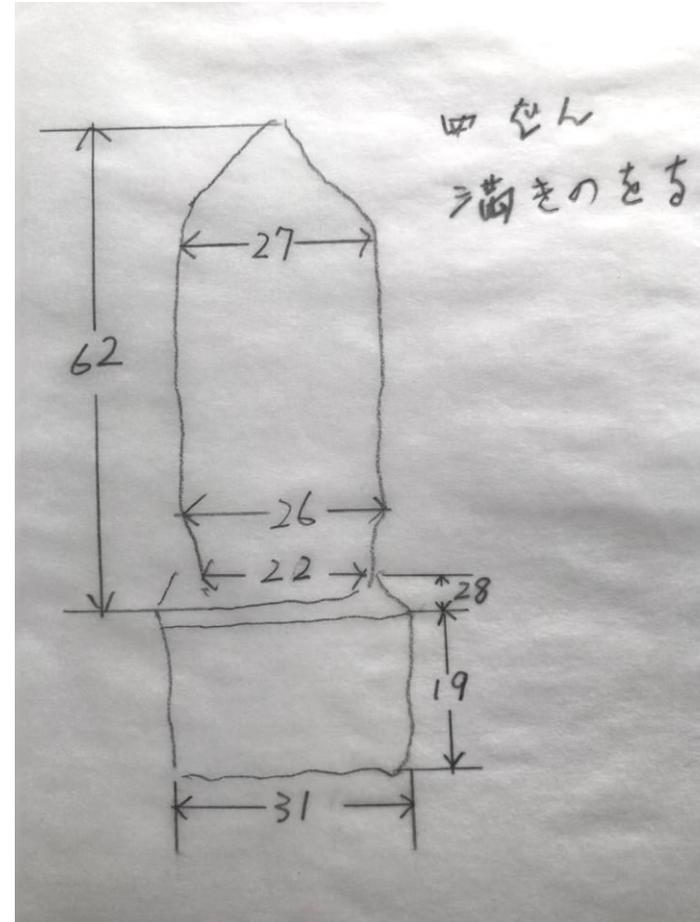
第三番 風猛山 粉河寺

御詠歌 ちちははの 恵みも深き 粉河寺 ほとけの誓ひ たのもしの身や
千手千眼観世音菩薩



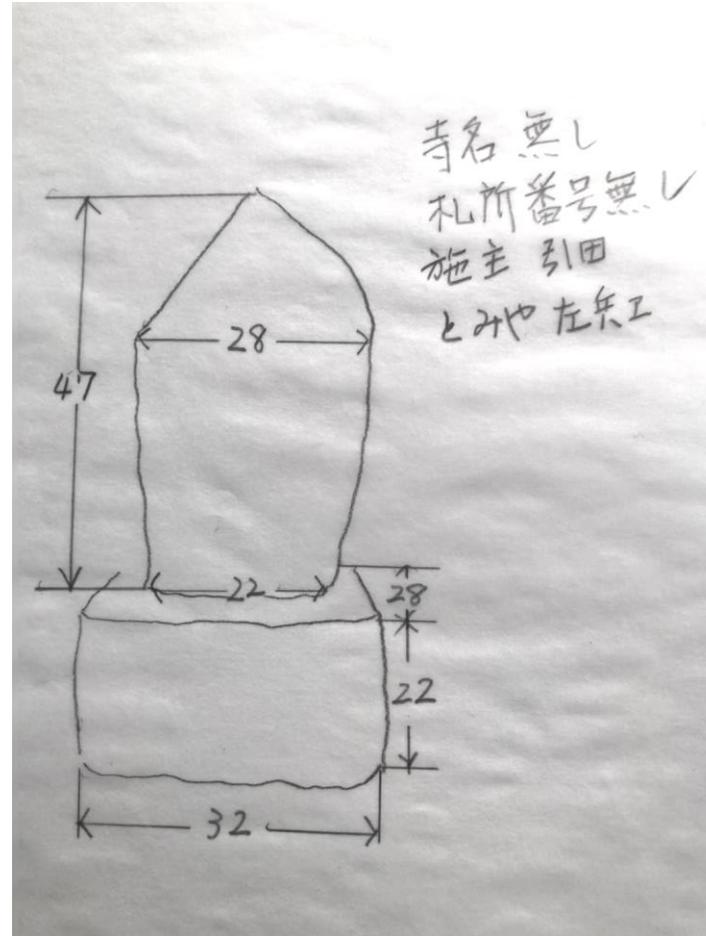
第四番 槇尾山 施福寺 (槇尾寺)

御詠歌 深山路や 檜原松原 わけゆけば 巻の尾寺に 駒ぞいさめる
十一面千手千眼観世音菩薩



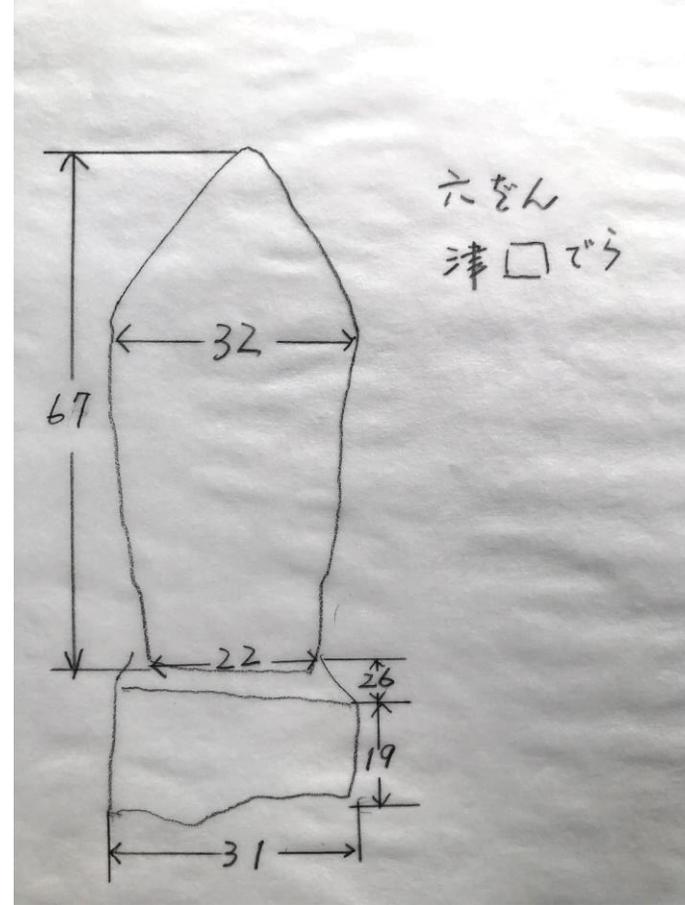
第五番 紫雲山 葛井寺

御詠歌 参るより頼みをかくる 葛井寺 花のうてなに 紫の雲
十一面千手千眼観世音菩薩



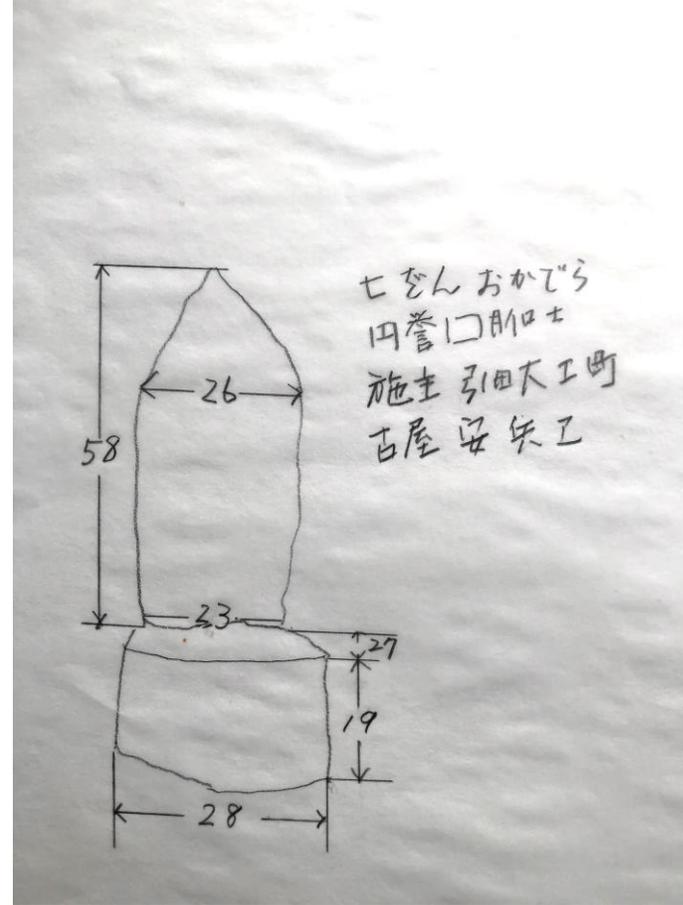
第六番 壺阪山 南法華寺（壺阪寺）

御詠歌 岩をたて水をたたえて壺阪の庭のいさごも浄土なるらん
十一面千手千眼観世音菩薩



第七番 東光山 岡寺（龍蓋寺）

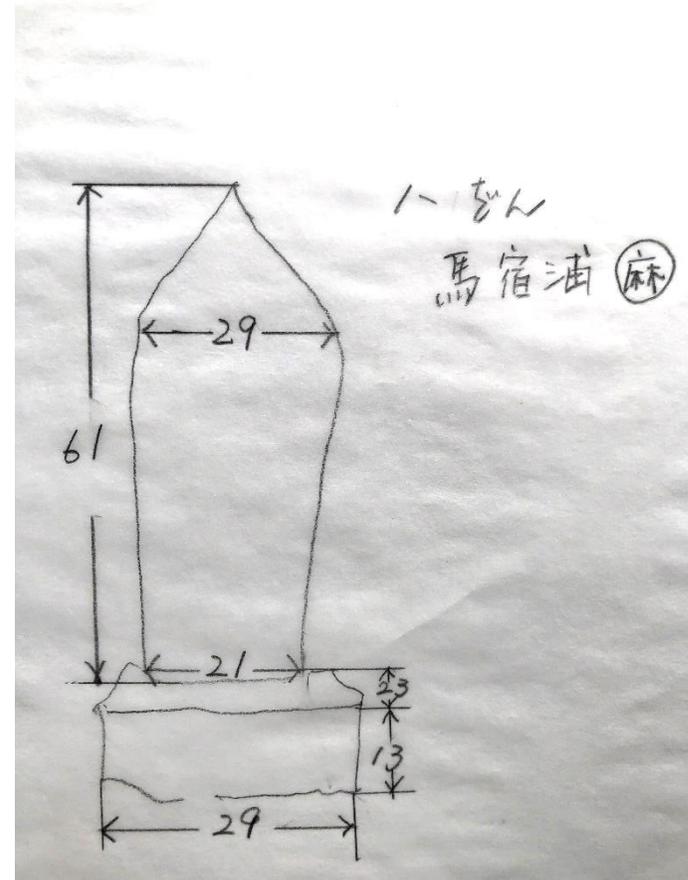
御詠歌 けさ見ればつゆ岡寺の庭の苔さながら瑠璃の光なりけり
如意輪観世音菩薩



第八番 豊山 長谷寺

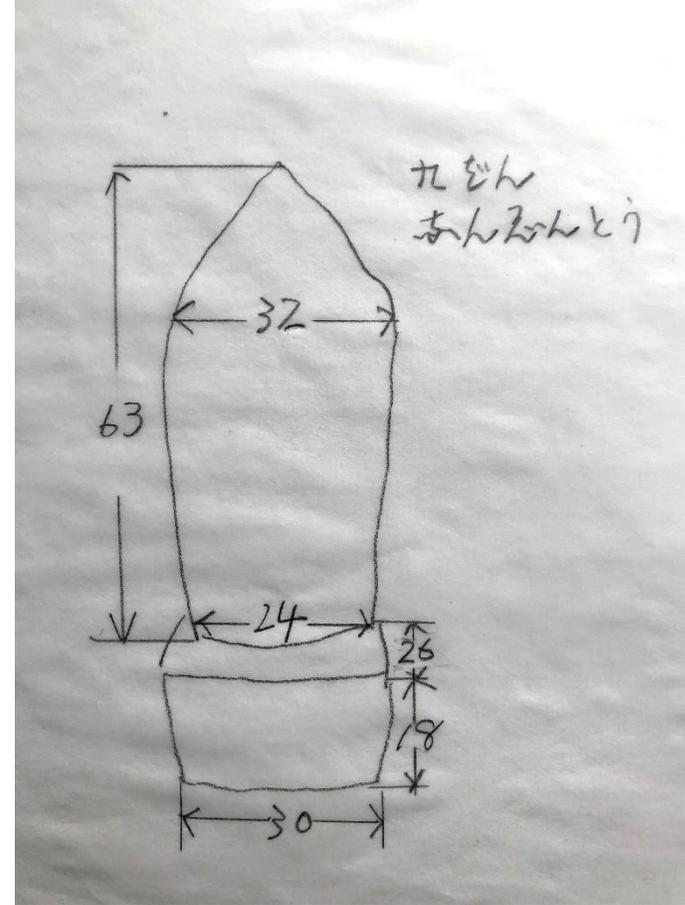
御詠歌 いくたびも 参る心は はつせ寺 山もちかいも 深き谷川

十一面観世音菩薩



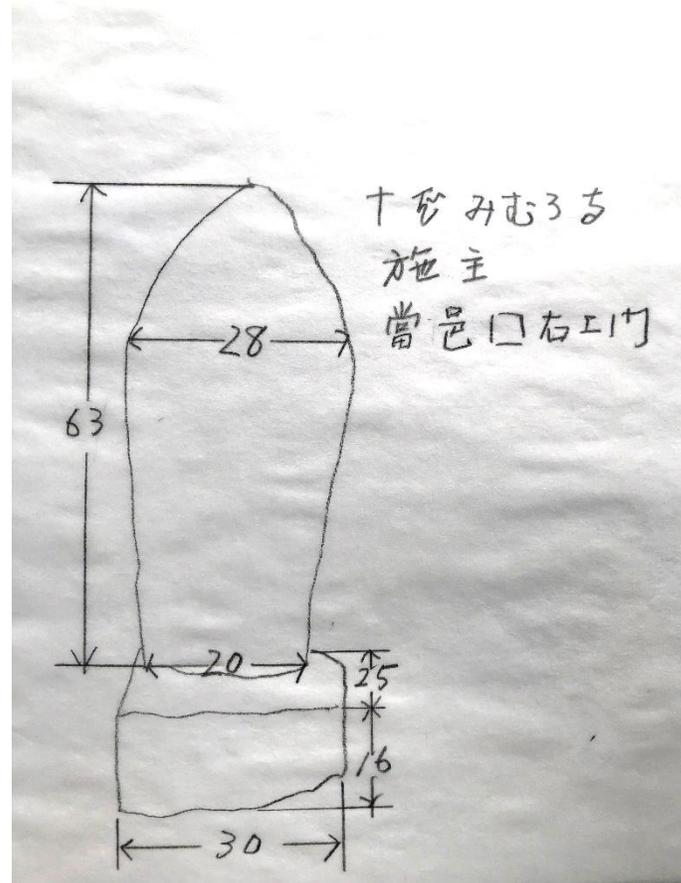
第九番 興福寺 南円堂

御詠歌 春の日は南円堂にかがやきて 三笠の山に 晴るるうす雲
不空羅索観世音菩薩像



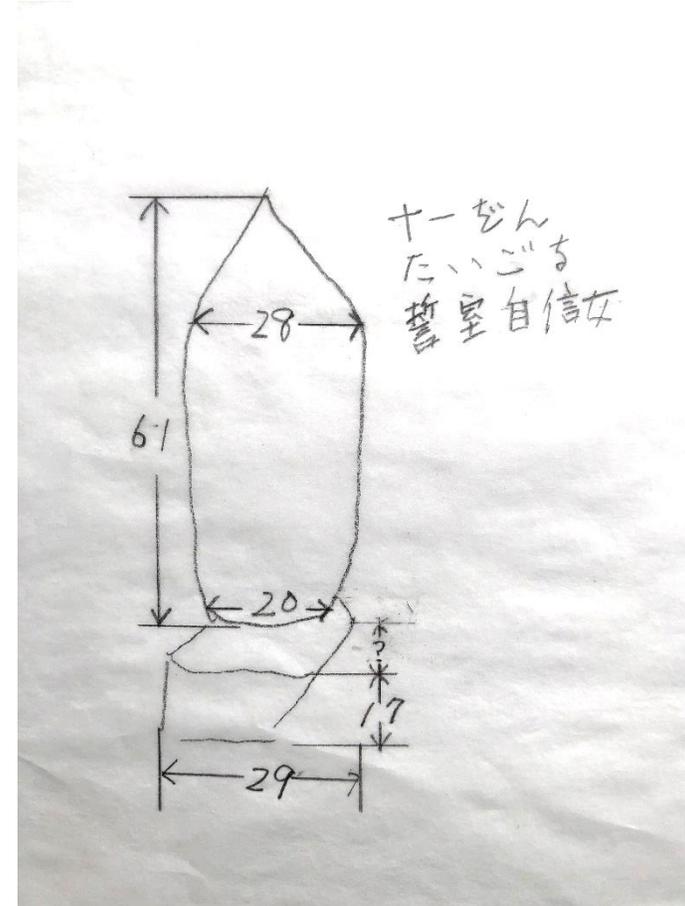
第十番 明星山 三室戸寺

御詠歌 夜もすがら 月を三室戸 わけゆけば 宇治の川瀬に 立つは白波
千手観世音菩薩



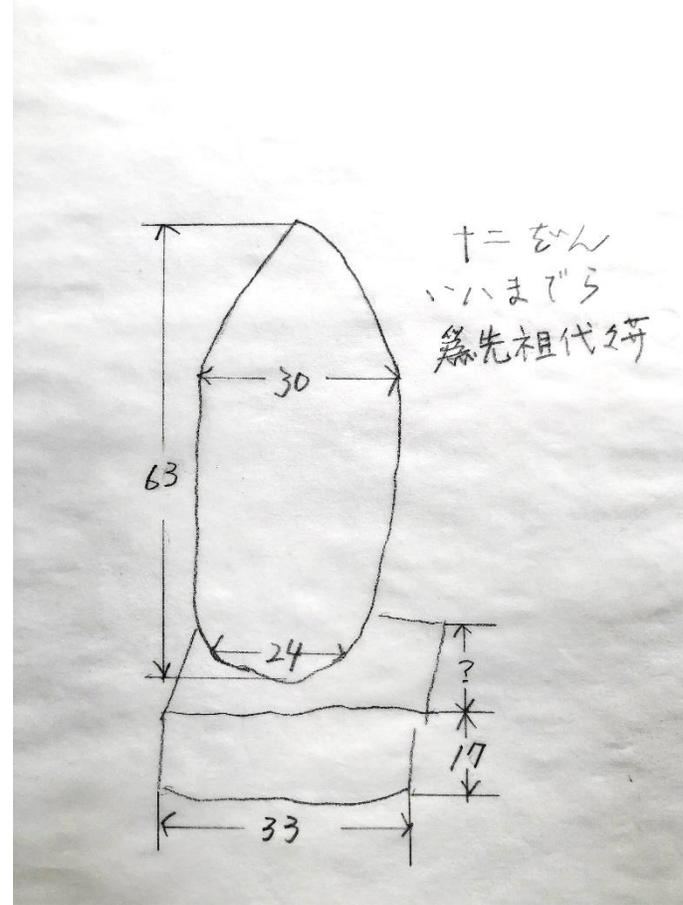
第十一番 深雪山 上醍醐 准胝堂（醍醐寺）

御詠歌 逆縁ももらさで救う願なれば 准胝堂は たのもしきかな
准胝観世音菩薩



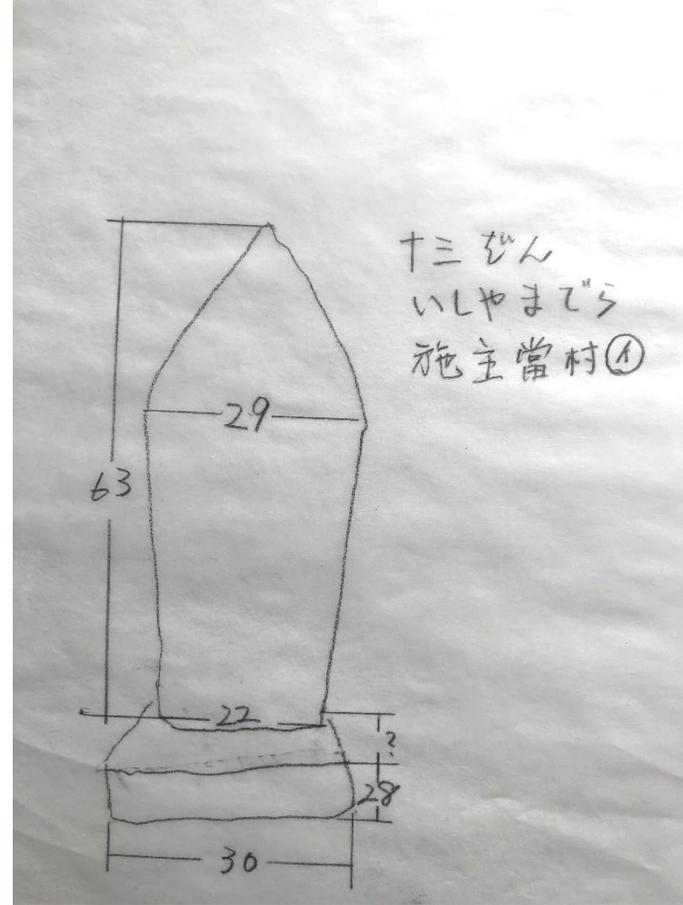
第十二番 岩間山 正法寺（岩間寺）

御詠歌 水上はいつくなるらん 岩間寺 岸うつ波は 松風の音
千手観世音菩薩



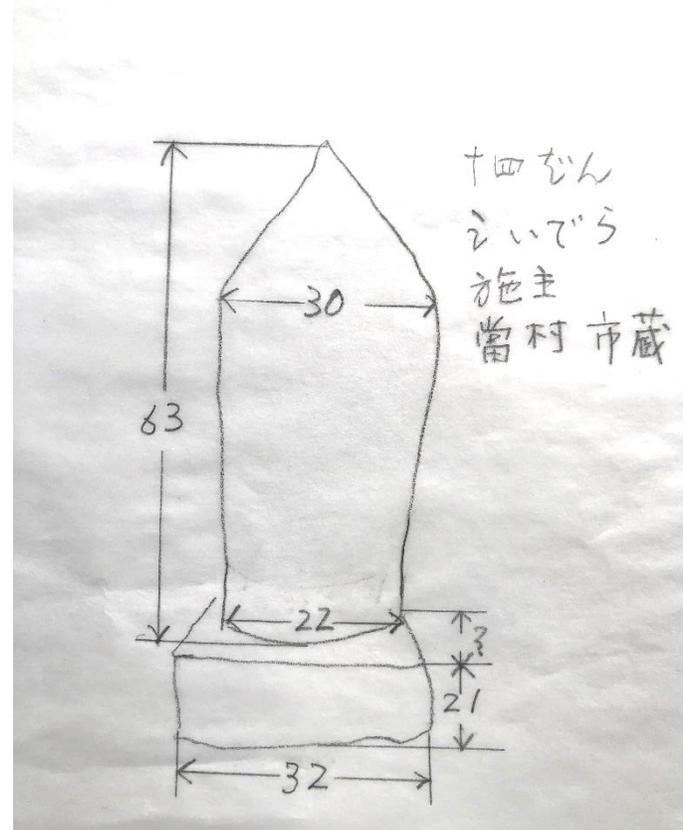
第十三番 石光山 石山寺

御詠歌 後の世を願うころは かるくとも ほとけの誓い おもき石山
如意輪観世音菩薩



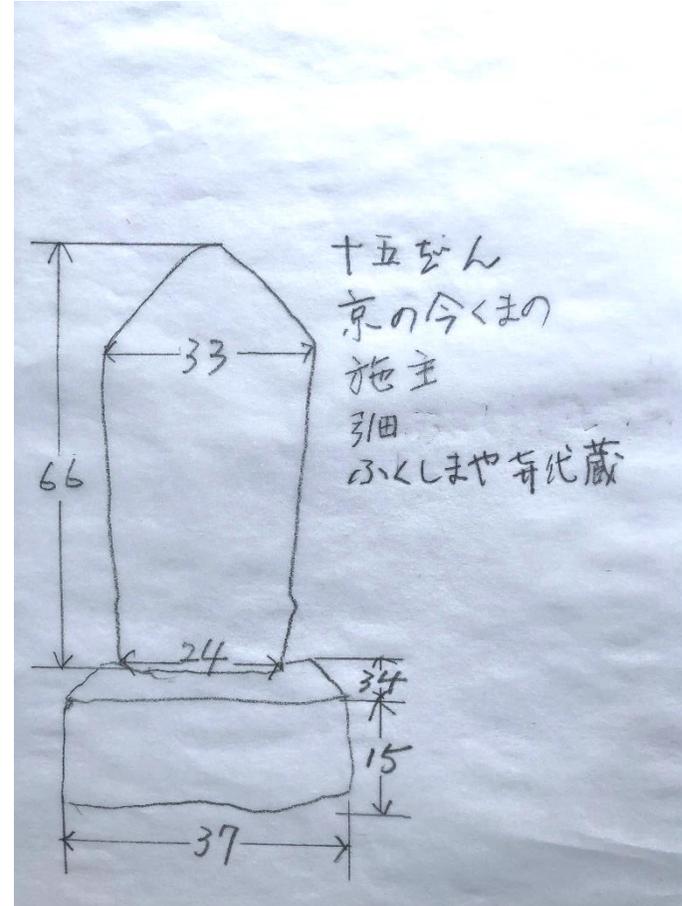
第十四番 長等山 三井寺

御詠歌 いで入るや 波間の月を 三井寺の 鐘のひびきにあくる湖
如意輪観世音菩薩



第十五番 新那智山 今熊野観音寺（観音寺）

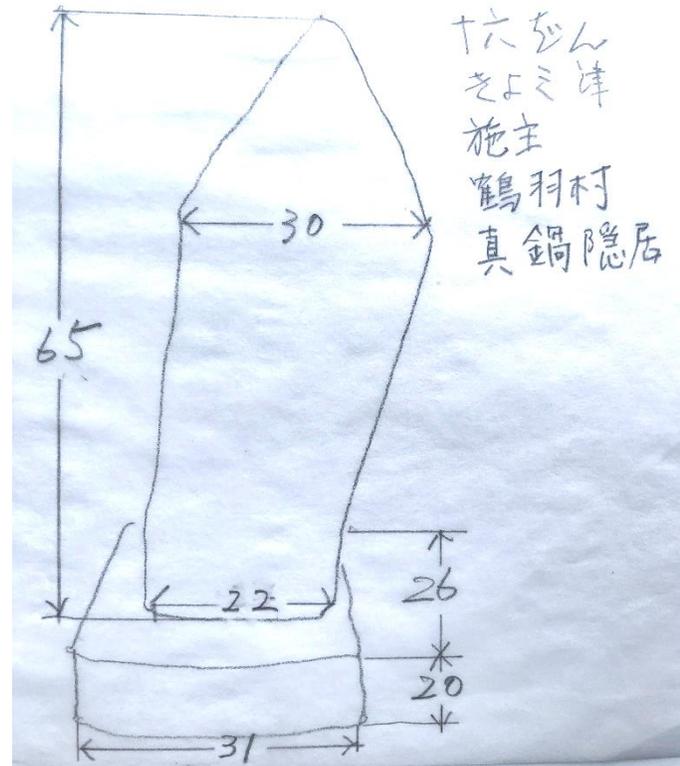
御詠歌 昔より立つとも知らぬ 今熊野 ほとけの誓い あらたなりけり
如意輪観世音菩薩



第十六番 音羽山 清水寺

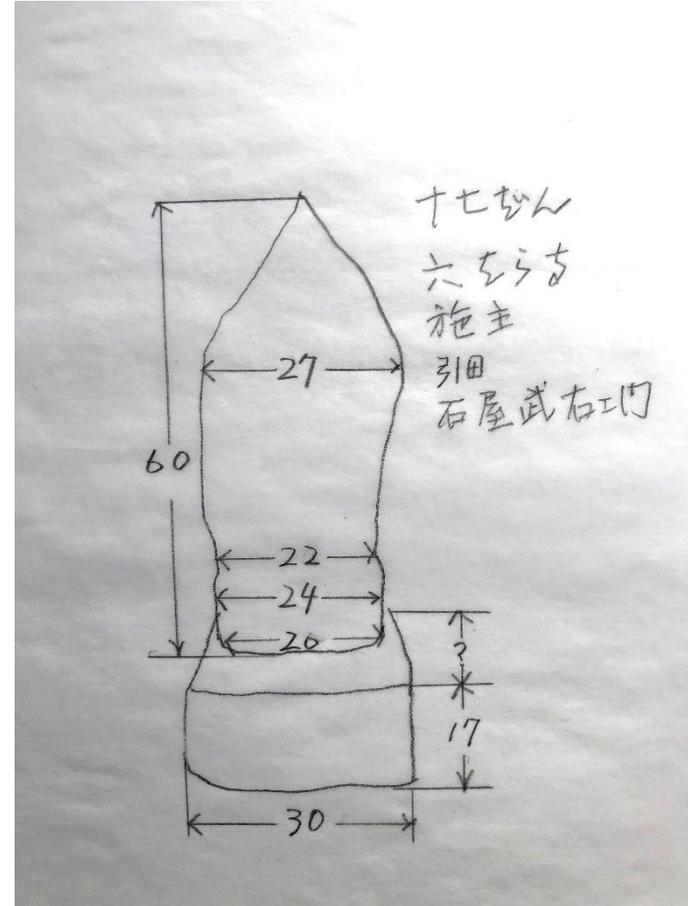
御詠歌 松風や音羽の滝の清水をむすぶ心は涼しかるらん

十一面千手千眼観世音菩薩



第十七番 補陀洛山 六波羅蜜寺

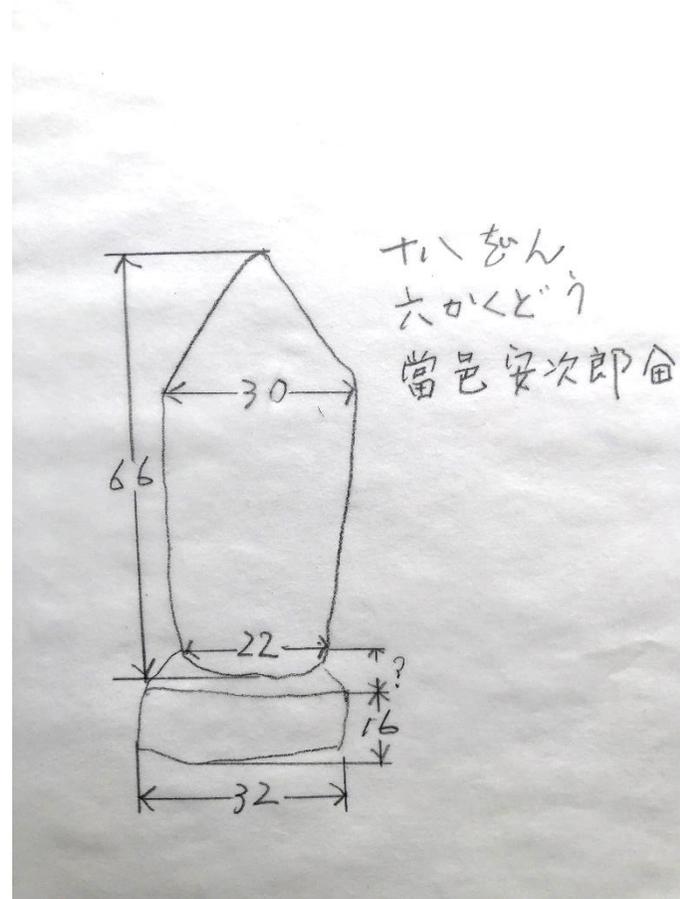
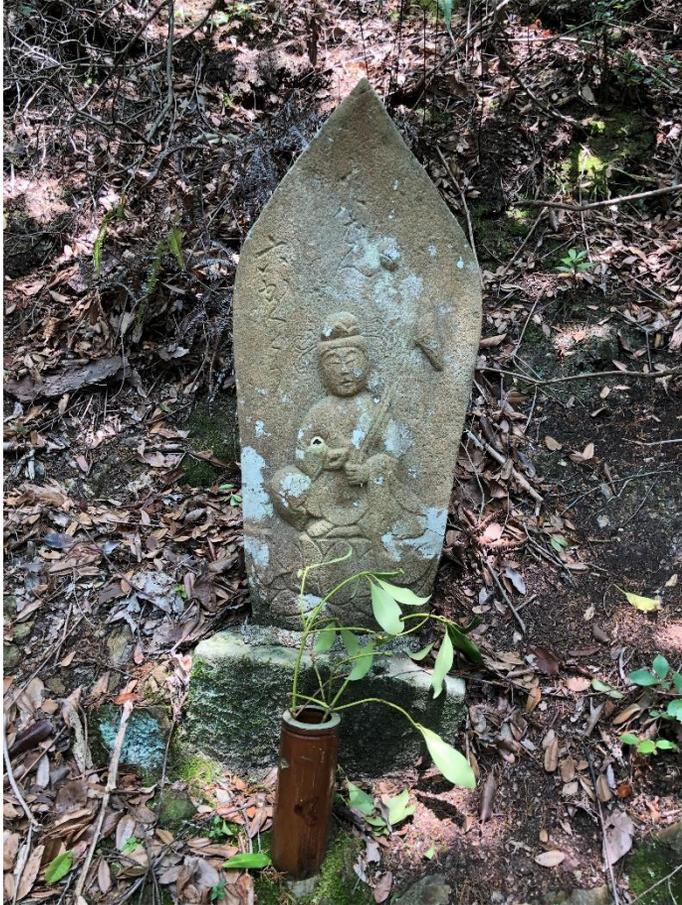
御詠歌 重くとも五つの罪はよもあらし六波羅堂へ参る身なれば
十一面観世音菩薩



第十八番 紫雲山 六角堂 頂法寺

御詠歌 わが思う心のうちは 六の角 ただ円かれと 祈るなりけり

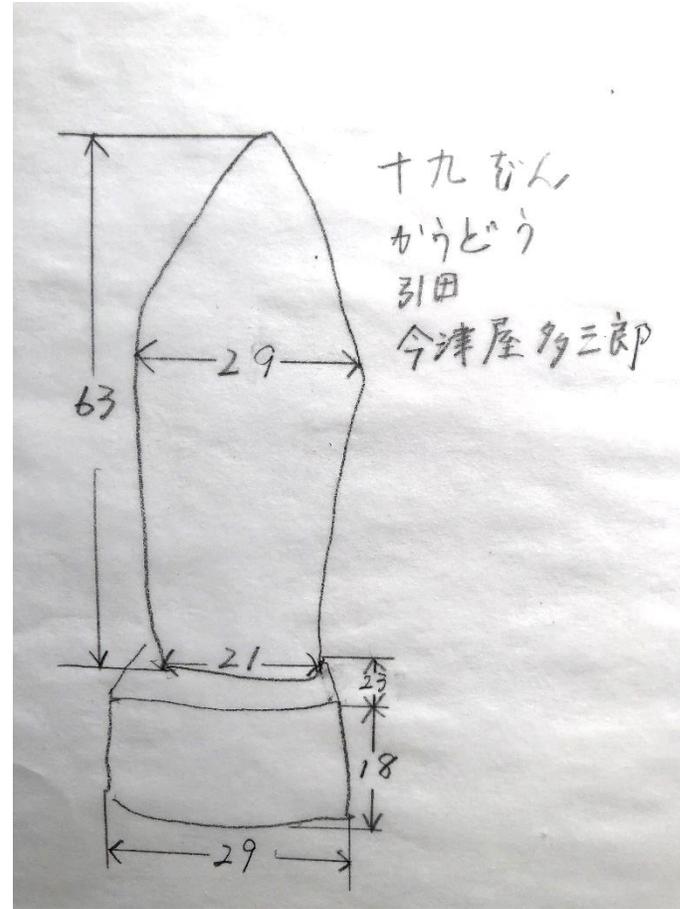
如意輪観世音菩薩



第十九番 靈麿山 革堂 行願寺

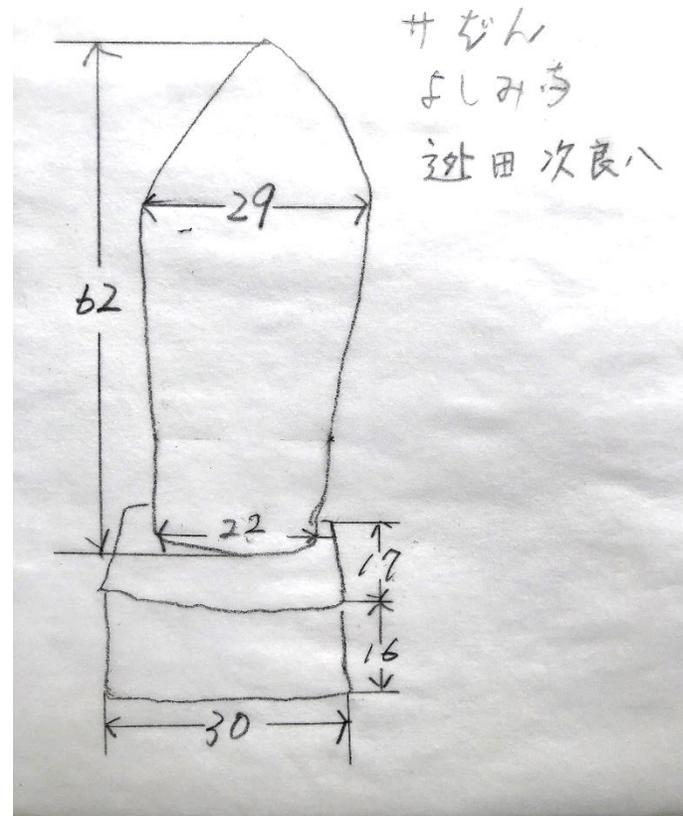
御詠歌 花を見ていまは望みも 革堂の 庭の千草も 盛りなるらん

千手観世音菩薩



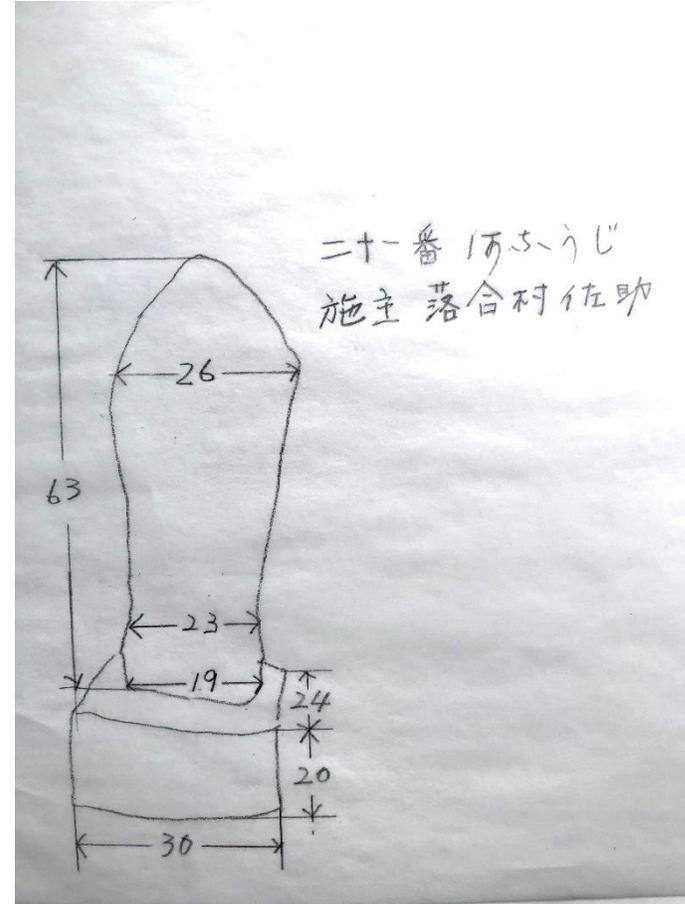
第二十番 西山 善峯寺

御詠歌 野をもすぎ 山路にむかふ 雨の空 善峯よりも 晴るる夕立
千手観世音菩薩



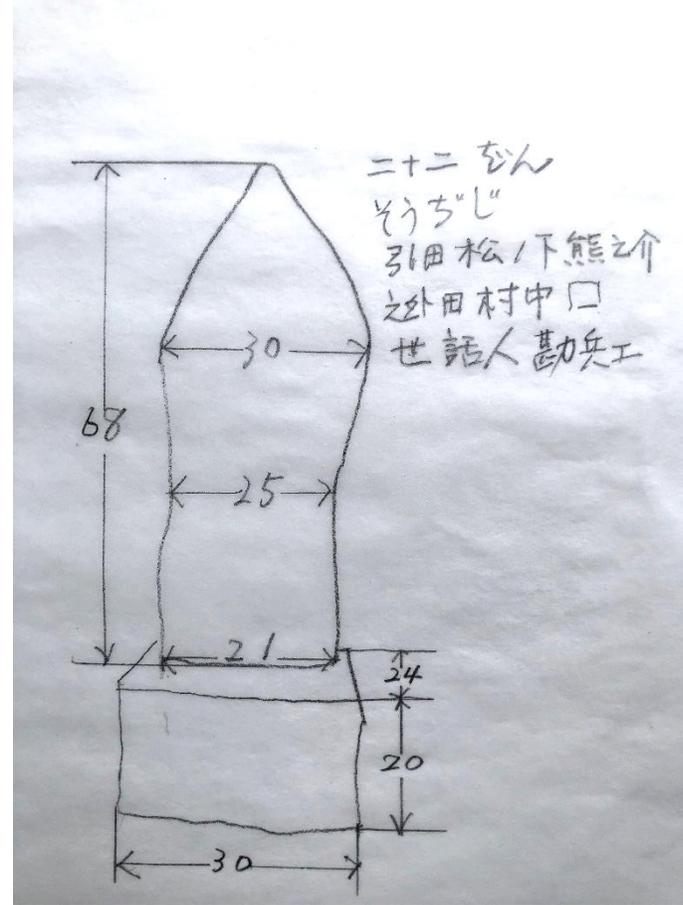
第二十一番 菩提山 穴太寺

御詠歌 かかる世に 生まれあふ身の あな憂やと思はで頼め 十声一声
聖観世音菩薩



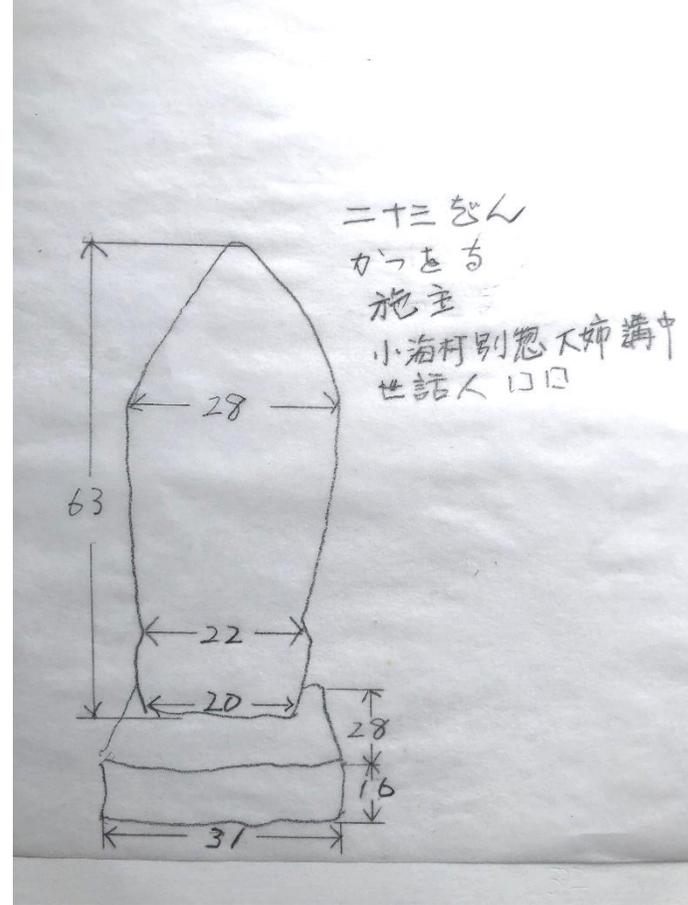
第二十二番 補陀洛山 総持寺

御詠歌 おしなべて 老いも若きも 総持寺の ほとけの誓い 頼まぬはなし
千手観世音菩薩



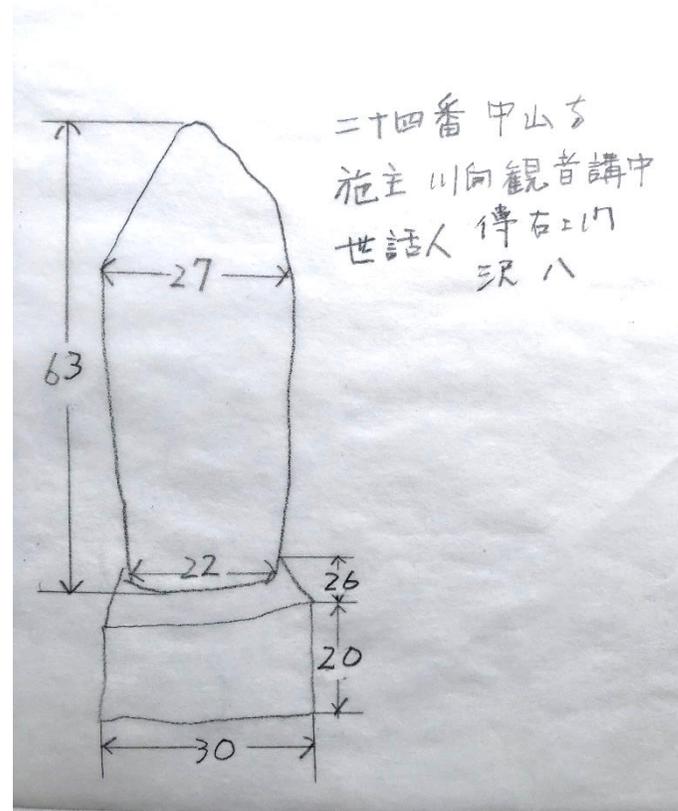
第二十三番 応頂山 勝尾寺

御詠歌 重くとも罪には法の勝尾寺 ほとけを頼む 身こそやすけれ
十一面千手観世音菩薩



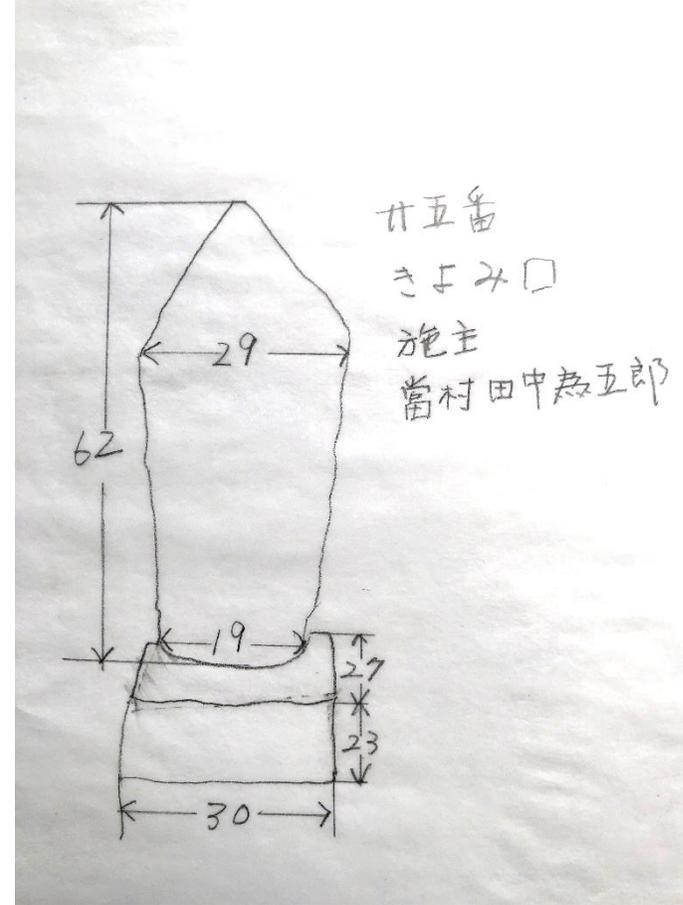
第二十四番 紫雲山 中山寺

御詠歌 野をもすぎ 里をもゆきて 中山の 寺へ参るは 後の世のため
十一面観世音菩薩



第二十五番 御嶽山 播州清水寺

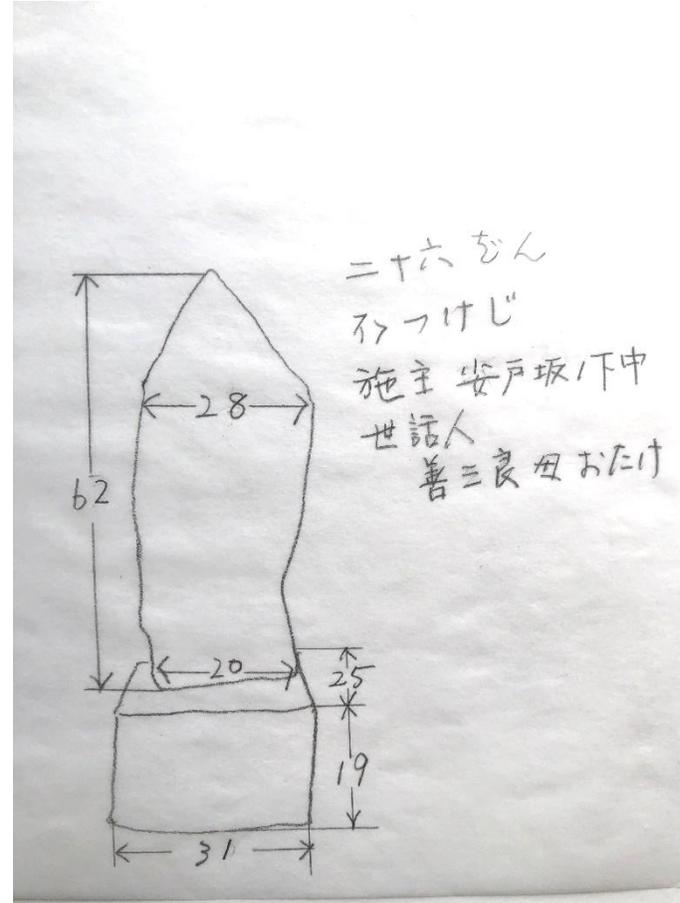
御詠歌 あはれみや 普き門の 品々になにをかなみの ここに清水
十一面千手観世音菩薩



第二十六番 法華山 一乗寺

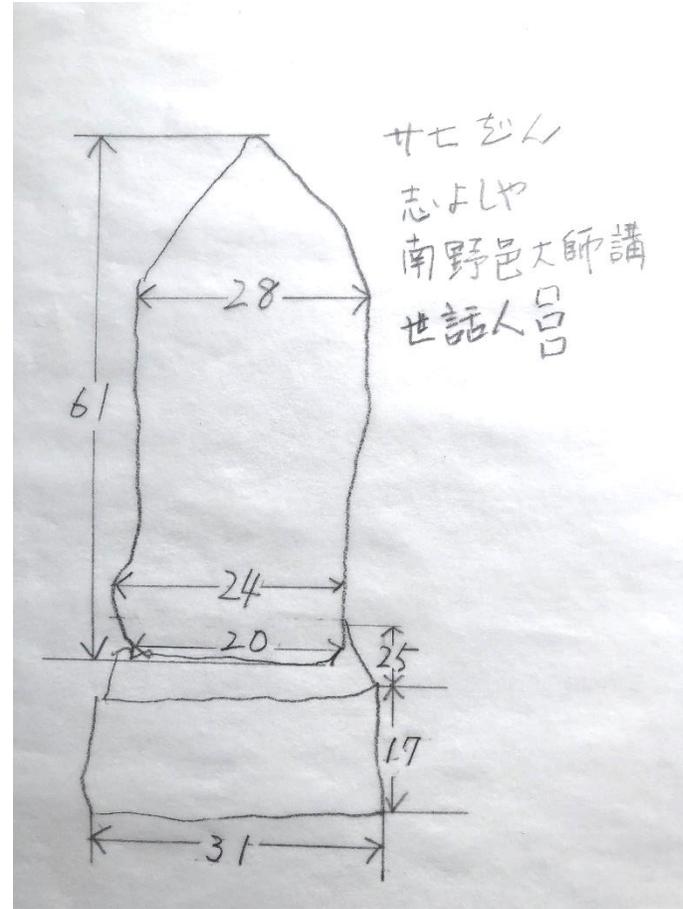
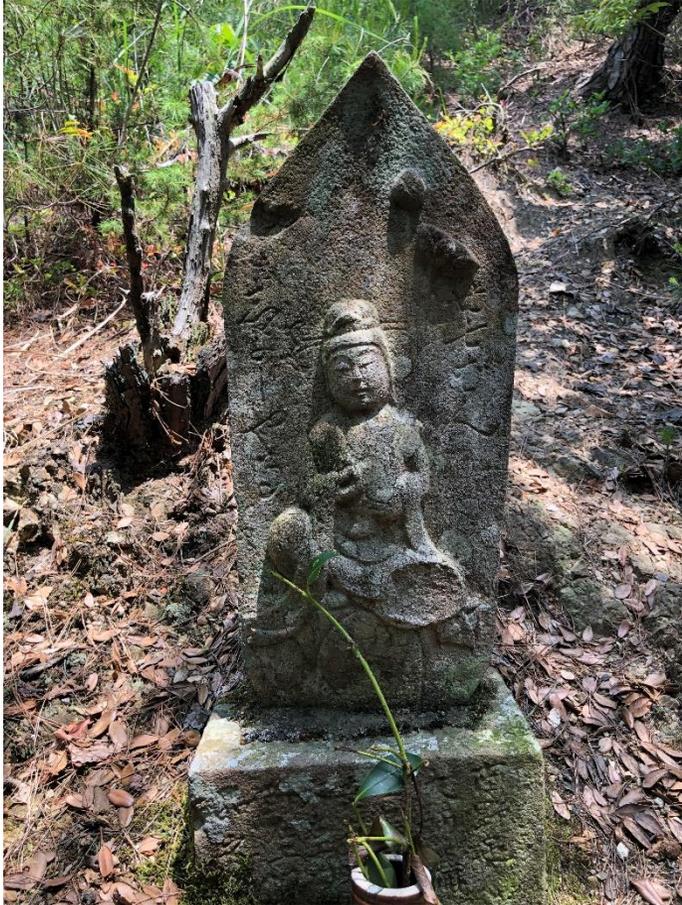
御詠歌 春は花 夏は橘 秋は菊 いつも妙なる 法の華山

聖観世音菩薩



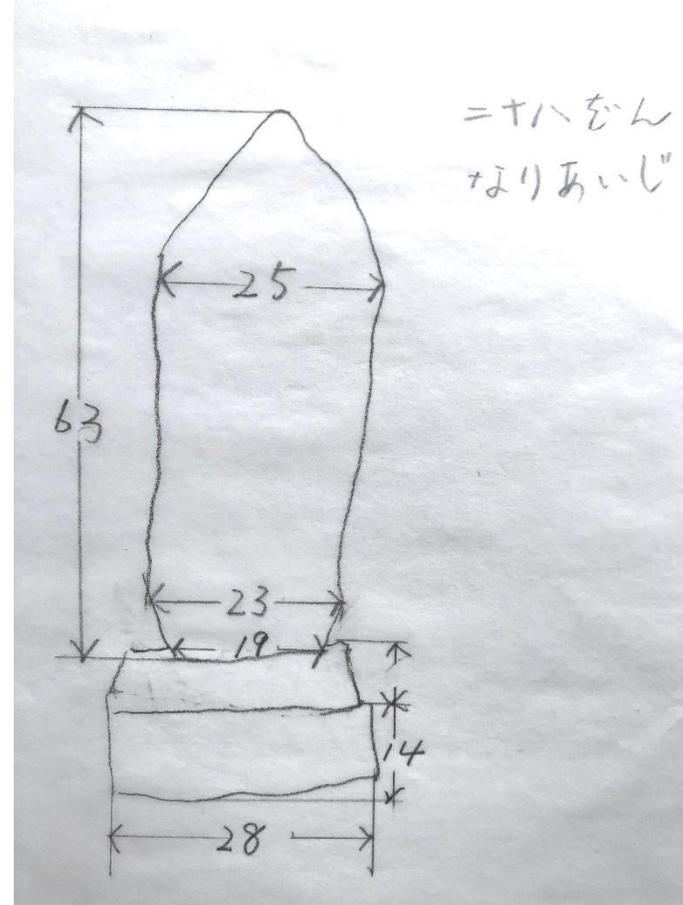
第二十七番 書寫山 圓教寺

御詠歌 はるばるとのぼれば書寫の山おろし 松のひびきも 御法なるらん
六臂如意輪觀世音菩薩



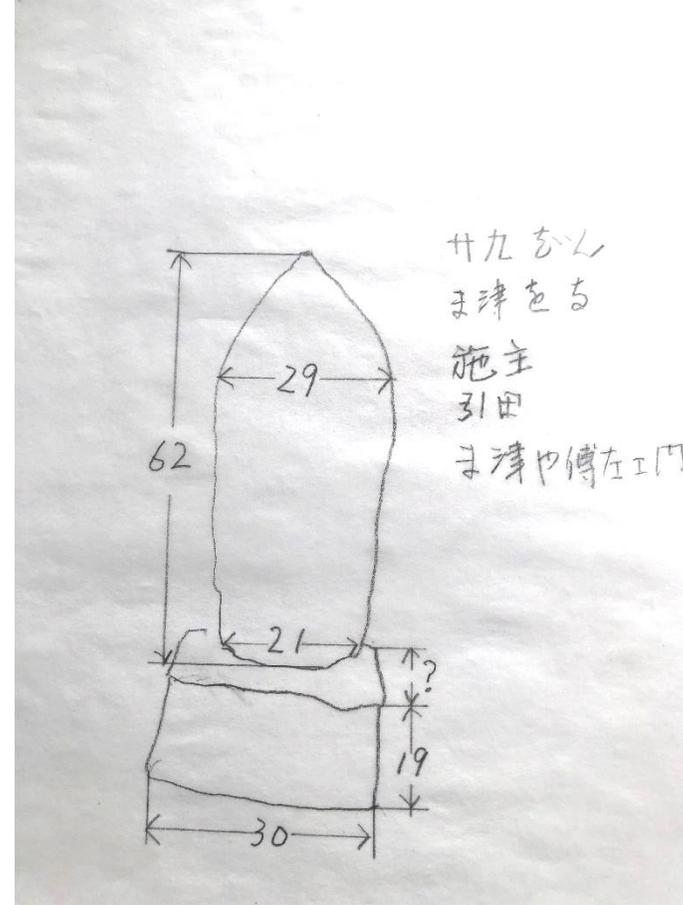
第二十八番 成相山 成相寺

御詠歌 波の音 松のひびきも 成相の 風ふきわたす 天の橋立
聖観世音菩薩



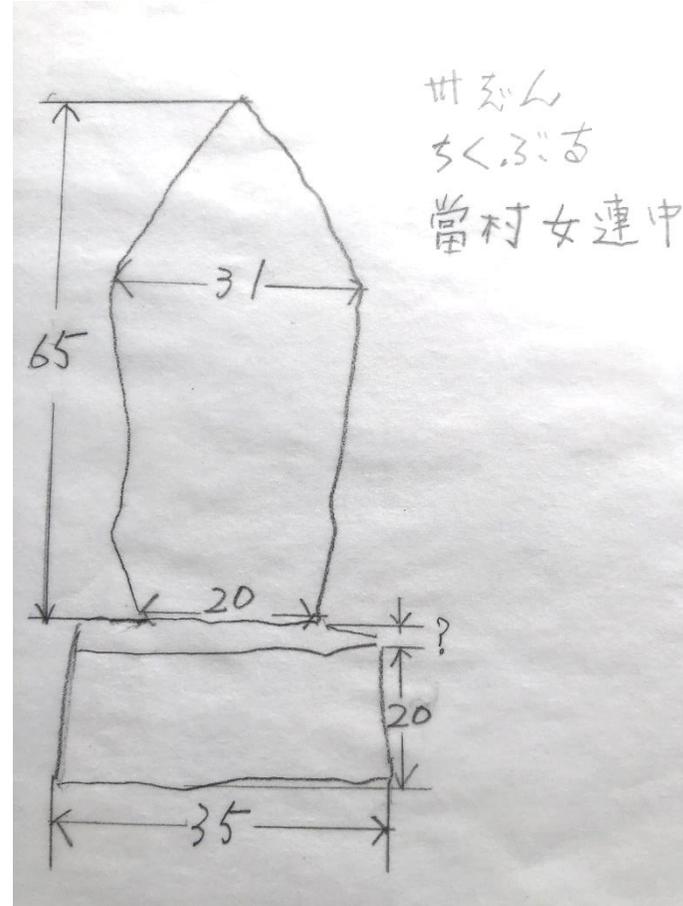
第二十九番 青葉山 松尾寺

御詠歌 そのかみは 幾世経ぬらん 便りをば 千歳もここに 松の尾の寺
馬頭観世音菩薩



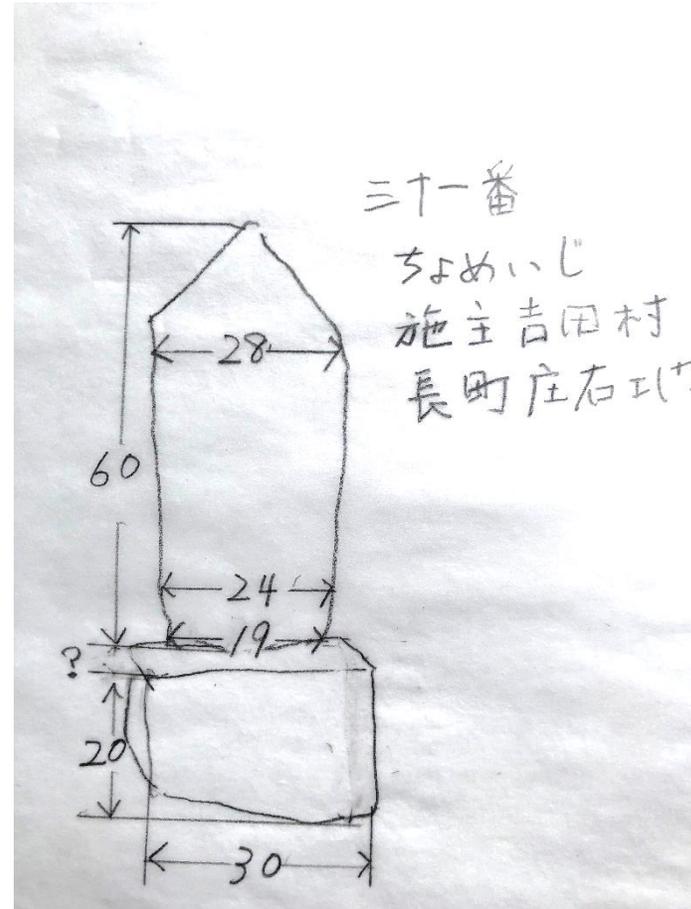
第三十番 竹生島 宝厳寺

御詠歌 月も日も波間に浮かぶ竹生島 船に宝を積むこちして
千手千眼観世音菩薩(観音堂)



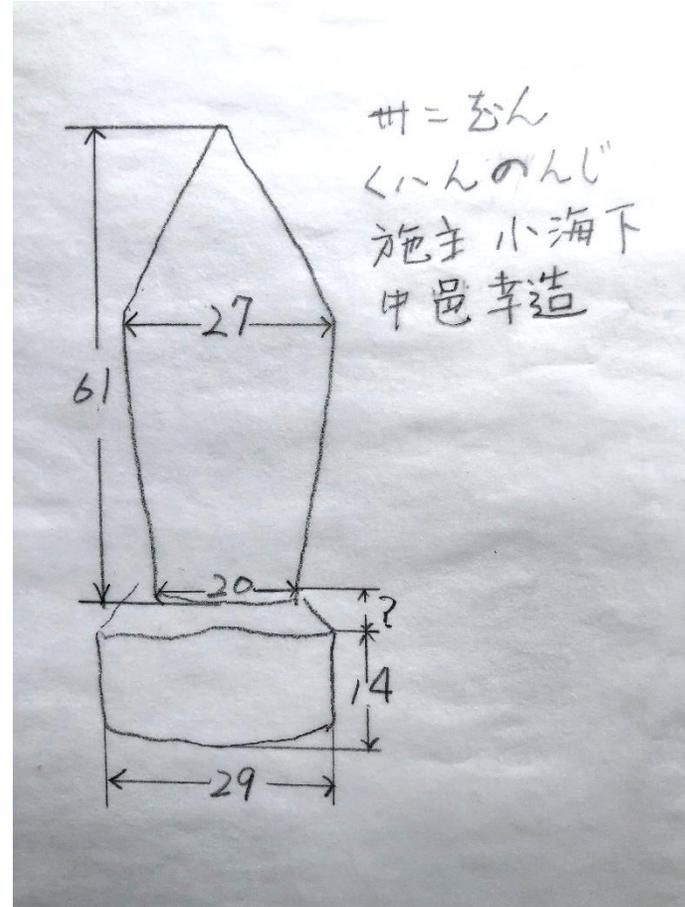
第三十一番 姨綺耶山 長命寺

御詠歌 八千年や 柳に長き 命寺 運ぶ歩みの かざしなるらん
千手十一面聖觀世音菩薩三尊一体



第三十二番 織山 観音正寺

御詠歌 あなとうと導きたまえ観音寺 遠き国より 運ぶ歩みを
千手千眼観世音菩薩



第三十三番 谷汲山 華嚴寺

御詠歌 世を照らす 仏のしるし ありければ まだともしびも 消えぬなりけり (現在)

御詠歌 万世の 願いをここに 納めおく 水は苔より 出る谷汲 (過去)

御詠歌 今までは 親と頼みし 笈摺を 脱ぎて納むる 美濃の谷汲 (未来)

十一面観世音菩薩

